

令和3年11月、北海道教育委員会から、北海道の公立学校における調査結果の概要として「令和3年度全国学力・学習状況調査 北海道版結果報告書」が公表された。苫前町教育委員会では、この調査結果を受けて苫前町の学力・学習状況を把握し、各学校における指導の工夫改善に生かすために、調査結果の概要をまとめたものである。

## ◆ 令和3年度全国学力・学習状況調査の概要

### 1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査の対象とする児童生徒

- 小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部第6学年の児童
- 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部第3学年の生徒

### 3 調査の内容

- ① 教科に関する調査（国語、算数・数学）
  - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
  - ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
  - ・児童生徒に対する調査
  - ・学校に対する調査

### 4 調査の方式

悉皆調査

### 5 調査期日

令和3年5月27日（木）

### 6 調査実施した学校・児童生徒数

【調査対象校】 北海道（公立）

区分	対象学校数（校）	実施学校数（実施率）	児童生徒数（人）
小学校	981	972（99.1%）	36,456
中学校	576	567（98.4%）	34,700
合計	1,557	1,539（98.8%）	71,156

## ■ 苫前町の全国学力調査結果の概要

### 1 児童生徒の学力状況の概要

#### 【小学校】

区 分	国 語 正答率 (%)	算 数 正答率 (%)
全 国	6 4	7 0
北海道	6 3	6 7
苫前町	6 1	7 1

#### (1) 国語に関する問題

\* 全道平均を2ポイント下回っている。(全国平均を3ポイント下回っている)

○ 特に平均正答率が高いものは、

設問1ー1「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることができるかどうか」(81.8%)、

設問2ー2「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができるかどうか」(86.4%)、

などの問題である。

● 課題が見られるものは、

設問2ー3「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることができるかどうか」(27.3%)、

設問2ー4「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうか」(22.7%)、

などの問題である。文章や図から必要な情報を見付けたり、図から見付けた情報を言葉に表したりすることができていないと考えられる。また、文章全体の内容を正確に把握した上で、必要な情報を見付けることもできていないと考えられる。

□ 今後は、

① 図表やグラフなどを含んだ文章を読む際に、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにした上で、文章と図表などの関係を捉えて読むことができるようにすることが大切である。さらに、図表からも必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることが必要である。

② 同じ文章を要約する目的によって内容の中心となる語や文は異なる場合がある。文章を要約するためには、目的に応じて文章全体から必要な部分を選び、内容を端的に説明することができるようにすることが大切である。

## (2) 算数に関する問題

\* 全道平均を4ポイント上回っている。(全国平均を1ポイント上回っている)

○ 特に平均正答率が高いものは、

設問1-(2)「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができるかどうか」(100.0%)、

設問1-(4)「条件に合う時刻を求めることができるかどうか」(81.8%)、

設問1-(5)「速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができるかどうか」(81.8%)、

設問3-(1)「棒グラフから、数量を読み取ることができるかどうか」(100.0%)、

設問3-(2)「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうか」(95.5%)、

設問3-(3)「データを二次元の表に分類整理することができるかどうか」(81.8%)、

設問4-(1)「示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができるかどうか」(81.8%)、

などの問題である。

● 課題が見られるものはなし。

【中学校】

区 分	国 語 正答率 (%)	数 学 正答率 (%)
全 国	6 5	6 0
北海道	6 5	5 8
苫前町	6 8	6 8

(1) 国語に関する問題

\* 全道平均より、3ポイント上回っている。(全国平均を3ポイント上回っている)

○ 特に正答率(80%以上)が高いものは、

設問1二「【話し合いの一部】における青空中学校の山下さんの発言1について説明したのとして最も適切なものを選ぶ」(100.0%)

設問2二「山田さんが書いた【意見文の下書き】の構成にはどのような工夫があか。複数の段落に着目して考えを書く。」(88.3%)

設問4一①「漢字を読む(伸ばして)」(100.0%)

設問4二「青木さんは【二回目のメールの下書き】に事前に確かめておきたいこととして、<確認事項>について書こうとしている。あなたならどのように書く。」(83.3%)

などの問題である。

● 課題(30%以下)が見られるものは、

設問2一「山田さんは、【意見文の下書き】を読み返して、AとBのように直した。その意見として最も適切なものを選ぶ。」(25.0%)

設問3四「【紹介】に「様々に評価する」とあるが、【文章の一部】では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているか。また、そのような「吾輩」の接し方をどう思うか条件にしたがって書く。」(16.7%)

などの問題である。

□ 今後は、

① 読み手の立場に立って文章を整える

目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を整えるように指導する必要がある。例えば、自分が書いた文章を説明や具体例、描写などに着目して見直し、これらの表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているなどについて検討し、効率的な表現にしていくよう指導することが重要である。

② 文学的な文章を読むに当たっては、幅広く文学作品に目を向け、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになっていたりすることも必要である。生徒にとってはなじみの薄い一見難解な文章であっても、表現や背景に着目して豊かに読み味わわせる経験をさせることが重要である。

## (2) 数学に関する問題

\* 全道平均より、10ポイント上回っている。(全国平均を8ポイント上回っている)

○ 正答率の高いものは、

設問1「 $(5x - 6y) - (3x - 2y)$ を計算する。」(91.7%)

設問7(1)「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。」(100.0%)

設問8(1)「気温差が $9^{\circ}\text{C}$ 以上 $12^{\circ}\text{C}$ 未満の階級の度数を書く」(100.0%)

などの問題である。

● 課題(25%以下)が見られるものは、

設問6(3)「四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する。」(8.3%)

設問7(2)「与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する。」(25.0%)

設問8(3)「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する。」(0.0%)

などの問題である。

□ 今後は、

- ① 数の性質について成り立つ事柄を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明できるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、「四角で囲んだ4つの数の和は、左上の数と右下の数の和の2倍である。」のように事柄の特徴を数学的に説明できるようにすることが重要である。
- ② 実験で得られたデータを理想化したり単純化したりして、その特徴を的確に捉えることができるように指導することが大切である。日常的な事象における伴って変わる二つの数量について実験で得られたデータを座標平面や表に表し、それらの持つ性質を利用してその関係を見いだす活動を取り入れることが重要である。
- ③ 日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することができるように指導することが大切である。その際、問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して処理し、データの傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を充実することが重要である。

## 2 児童生徒の学習状況の概要

### 〔学習状況調査結果の傾向〕

質問紙調査は、子どもたちの生活習慣や学習環境等についての質問で構成されており、学習意欲、学習環境、生活の諸側面等に関する調査内容となっている。

本調査において、「している」「どちらとえば、している」など肯定的に解答した児童生徒が80%を超えたものを高い傾向、60%未満を低い傾向として分類した。

### ◆ 苫前町の児童生徒が高い傾向（80%以上）を示した質問事項

#### ○ 小学校、中学校共通

- \* 朝食を毎日食べている。
- \* 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- \* 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- \* 人が困っているときは、進んで助けている。
- \* いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- \* 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- \* 友達と協力するのは楽しいと思う。
- \* 今住んでいる地域の行事に参加している。
- \* 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。
- \* 5年生（中1，2年生）までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えている。
- \* 5年生（中1，2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。
- \* 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。
- \* 学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- \* 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- \* 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- \* 国語の勉強は大切だと思う。
- \* 国語の授業の内容はよく分かる。
- \* 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- \* 国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている。
- \* 算数・数学の勉強は大切だと思う。
- \* 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- \* 算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
- \* 算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。

## ○ 小学校のみ

- \* 将来の夢や目標を持っている。
- \* 学校に行くのは楽しいと思う。
- \* 家で自分で計画を立てて勉強をしている（学校の授業の予習や復習を含む）。
- \* 5年生までに受けた授業は、自分に合った考え方、教材、学習時間などになっている。
- \* あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。
- \* 5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができている。

## ○ 中学校のみ

- \* 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。
- \* 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。
- \* 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
- \* 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
- \* 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
- \* 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
- \* 学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。
- \* 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている。
- \* 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしている。
- \* 国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしている。
- \* 数学の勉強は好きだ。
- \* 数学の授業の内容はよく分かる。
- \* 解答時間は十分だった。（国語、数学ともに）

## ◆ 苫前町の児童生徒が低い傾向（60%未満）を示した質問事項

### ○ 小学校・中学校共通

- \* 算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。
- \* これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がある（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）。
- \* 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じた。
- \* 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた。
- \* 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていた。

### ○ 小学校のみ

- \* 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる。
- \* 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
- \* 新聞は読んでいる。
- \* 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
- \* 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている。
- \* 算数の勉強は好き。
- \* 解答時間は十分だった（国語）。

### ○ 中学校のみ

- \* 英語の勉強は好きだ。
- \* 1、2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた。

◆ 苫前町の児童生徒が全道より高い傾向（5ポイント以上～20ポイント未満）を示した質問事項

○ 小学校・中学校共通

- \* 朝食を毎日食べている。
- \* 国語の勉強は大切だと思う。
- \* 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。

○ 小学校のみ

- \* 人が困っているときは、進んで助けている。
- \* 友達と協力するのは楽しいと思う。
- \* 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
- \* 5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えている。
- \* 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。
- \* 5年生までに受けた授業は、自分に合った考え方、教材、学習時間などになっている。
- \* あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。
- \* 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- \* 国語の勉強は好き。
- \* 国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている。
- \* 算数の勉強は大切だと思う。
- \* 英語の勉強は好き。
- \* 5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができている。

○ 中学校のみ

- \* 毎日、同じくらいの時刻に寝ている、起きている。
- \* 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- \* 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
- \* 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
- \* 1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた。

- \* 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
- \* 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- \* 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
- \* 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしている。
- \* 国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしている。
- \* 数学の授業の内容はよく分かる。
- \* 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- \* 数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えている。
- \* 数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
- \* 数学の授業で問題の解き方や考えが分かるようにノートに書いている。
- \* これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にあった。
- \* 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていた。
- \* 解答時間は十分だった。（国語）

◆ 苫前町の児童生徒が全道より20ポイント以上高い傾向を示した質問事項

○ 小学校・中学校共通

- \* 新聞は読んでいる。
- \* 今住んでいる地域の行事に参加している。

○ 小学校のみ

- \* 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。

○ 中学校のみ

- \* 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。
- \* 今住んでいる地域の行事に参加している。
- \* 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
- \* 1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していた。
- \* 学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。
- \* 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている。
- \* 数学の勉強は好きだ。
- \* 数学の勉強は大切だと思う。

◆ 苫前町の児童生徒が全道より20ポイント以上低い傾向を示した質問事項

○ 小学校・中学校共通はなし

○ 小学校のみ

- \* 解答時間は十分だった（国語）。

○ 中学校のみ

- \* あなたは家でどのくらい日本語を話しているか。
- \* 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じた。

## 〔児童生徒質問紙から読み取れる傾向 その1〕

(四捨五入で記載%)

質 問 事 項		小学校	小学校	中学校	中学校
		本町	全道	本町	全道
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。	きちんと守っている	32	38	50	31
	だいたい守っている	41	33	0	36
	あまり守っていない	5	4	8	6
	守っていない	0	1	0	2
	約束はない	18	12	42	20
	持っていない	4	12	0	4
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。	4時間以上	36	20	17	22
	3～4時間	14	15	0	18
	2～3時間	5	21	17	25
	1～2時間	41	26	8	20
	1時間未満	0	13	42	10
	全くしない	4	5	17	6
学校の授業時間以外に、普段（月から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。	3時間以上	9	6	0	11
	2～3時間	5	13	8	27
	1～2時間	55	40	50	34
	30分～1時間	27	28	8	16
	30分未満	4	11	8	8
	全くしない	0	2	25	24
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)。	4時間以上	14	4	0	10
	3～4時間	0	6	8	15
	2～3時間	27	14	0	25
	1～2時間	50	37	50	26
	1時間未満	9	31	17	16
	全くしない	0	8	25	8
学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合も含む）。	教わっていない	91	63	75	47
	難しい内容を教わっている	0	17	17	13
	分からなかった内容を教わっている	0	5	8	10
	上記両方の内容を教わっている	5	7	0	24
	上記両方の内容のどちらともいえない	4	8	0	5

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。	2時間以上	14	7	8	6
	1～2時間	9	10	8	9
	30分～1時間	27	18	0	14
	10分～30分	27	22	42	20
	10分未満	14	15	8	12
	全くしない	9	28	33	34
あなたの家には、およそどれくらい本がありますか。	0～10冊	13	12	17	13
	11～25冊	14	18	8	18
	26～100冊	23	32	42	31
	101～200冊	9	19	8	18
	201～500冊	32	13	8	14
	501冊以上	9	6	17	6
5年生（中1，2年生）までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。	ほぼ毎日	9	12	0	6
	週1回以上	50	27	8	21
	月1回以上	27	38	83	42
	月1回未満	14	23	8	31
あなたの学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。	ほぼ毎日	41	15	0	10
	週1回以上	9	31	58	24
	月1回以上	23	28	17	30
	月1回未満	27	26	25	35
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。	3時間以上	9	4	0	3
	2～3時間	5	4	8	5
	1～2時間	5	12	0	13
	30分～1時間	18	22	17	22
	30分未満	41	29	25	34
	全く使っていない	22	20	50	19
	持っていない	0	9	0	3

## 〔児童生徒質問紙から読み取れる傾向 その2〕

選択項目のうち、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」を合わせたポイントが全道と比較して、  
5ポイント未満の差・・・「ほぼ同じ」  
5ポイント以上～20ポイント未満の差・・・「高い」又は「低い」  
20ポイント以上の差・・・「非常に高い」又は「非常に低い」  
で表した。

### <基本的な生活習慣等>

- 「朝食を毎日食べていますか」の質問に、「している」「どちらかといえば、している」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に高かった。

### <挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等>

- 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」の質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は低く、中学生はほぼ同等だった。
- 「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」の質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は低く、中学生は非常に高かった。
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に高かった。
- 「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」の質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は低く、中学生はほぼ同程度だった。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は低く、中学生は高かった。
- 「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は高く、中学生はほぼ同程度だった。

### <学習習慣、学習環境等>

- 「新聞を読んでいますか」の質問に、「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に非常に高かった。

### <地域や社会に関わる活動の状況等>

- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に非常に高かった。

- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は高く、中学生は非常に高かった。

#### <主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況>

- 「5年生（中1，2年生）までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」の質問に「伝えていた」「どちらかといえば、伝えていた」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は高く、中学生はほぼ同程度だった。
- 「5年生（中1，2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の質問に「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は高く、中学生は非常に高かった。
- 「5年生（中1，2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は低く、中学生は高かった。
- 「5年生（中1，2年生）までに受けた授業は、自分に合った考え方、教材、学習時間などになっていましたか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は高く、中学生はほぼ同程度だった。
- 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は低く、中学生は高かった。

#### <総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳>

- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は非常に高く、中学生は高かった。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に高かった。
- 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は高く、中学生はほぼ同程度だった。

#### <学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）>

- 「国語の勉強は好きですか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に高かった。
- 「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に高かった。

- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に高かった。
- 「国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は高く、中学生はほぼ同程度だった。

#### <学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）>

- 「算数・数学の勉強が好きですか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は低く、中学生は非常に高かった。
- 「算数・数学の勉強は大切だと思いますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に高かった。
- 「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は低く、中学生は高かった。
- 「算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は低く、中学生は高かった。
- 「算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は低く、中学生はほぼ同程度だった。
- 「算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」の質問に「書いている」「どちらかといえば、書いている」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は低く、中学生は高かった。

#### <学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語）>

- 「英語の勉強が好きですか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は高く、中学生はほぼ同じだった。
- 「5年生（中1，2年生）までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生は高く、中学生は低かった。
- 「これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に低かった。

#### <新型コロナウイルス感染症の影響>

- 「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と解答した児童生徒の割合は、全道と比べ小学生・中学生共に低かった。